

年末より年始へ

十二月三十一日午後六時、昭和九年一ヶ年の奮闘を了えた本部員は、仏前に参集した。勤行 礼讃文、阿弥陀経、聖教拝読、等々、例の通り進む。

それから私は、年末年始に当つての一席の訓話をする。

「いよく一ヶ年の奮闘を了えて、無事に大晦日を迎えることが出来たことを有難う思います。此の時に当つて一ヶ年を回顧し過去を省み、来るべき昭和十年に備えることは、誠に大事なことであります。

一、顧みれば昭和九年は光明団にとつては多事多端な一ヶ年であった。昭和八年十二月末、まだ工事中の本部に移転して、本年になつて完成した。その本部が出来てからの第一年であった。随つてある意味での創業と言つて差支へない。この一ヶ年間、諸君の奮闘によつて、全てに当つて充実を見たことは、深く感謝せねばならないことである。我等は同胞の誠によつて建てられたる本部において、六月幹部講習、八月の聖講習、十二月の報恩講々習会等の有意義なる会をここですることが出来たのみならず、団運動の上に歴史的な一步をふみ出すことが出来た。

一、本年は全てに於て創業であつたが、更にその上、愚弟啓三の大患のために、諸君を全く非常時におき、艱難を二重にしたが、諸君は私と共にこの苦難にたえ、又よく一体になつてお尽力下さつたことは誠に感謝に堪えないことである。

一、かかる事情は我等の生活を経済的非常時にした。光明団十六年、その間一日として経済上の樂觀を許さなかつたが、別けて本年は全く言語を絶した苦難であつた。然るに本部員はよくそれに堪えて下さつた。衷心感謝しなくてはならない。

一、かかる事情のために本部から、吉藤、今本、土井迫の三氏を失つたことは誠に残念なことであつた。

一、年末に當つて、私は諸君の奮闘に対して、誠に衷心感謝なきを得ない。印刷部あれほど本部のために忠実に働いてくれた同志土井迫君を給料節約のために去つてもらわねばならなかつた後、佐々木温三君は一荷に負つて奮闘してくれ、他の本部員が手伝つたとは言え、一月一日発行の『聖光』をもすでに発送をすませて、立派に一ヶ年の仕事を終了せしめた。亀谷梯三君は、日校、幼稚部を担当して、本部においてはじめて少年及び幼年への働きかけに基礎づけしてくれた。私は全くすべて同君に托しておいた。然るに、不完全なる設備のなかに、着々成績を挙げて、将来への発展を約束づけてくれたことは誠に本団として特筆すべきである。

更に我等は年末に當つて感謝すべきは藤井なみ子氏の奮闘であつた。八日以後、全く啓三の看護のために献身的な努力をして下さつた。我等は同氏に対して何等の謝礼すら出来なかつたが、その奉仕に対して深甚なる感謝を贈らざるを得ない。その他、事務に、炊事にそれぐ全員一心になつて奮闘して今夜を迎え得たことに対して、私は深い感謝の意を表せざるを得ない。

しかし私どもは、眼を外部団員の上に注がなければならぬ。本部員がよく奮闘したように、全国の同志たちは陣頭に立つて、その持場において、献身的努力を続けている。私たちは全国の同胞の上に、今深い感謝を送らなければならぬ。

大阪本部をはじめとして、各地の同胞たちは人間の迷妄と戦い、名号の真実を把持してたじろがず、よく祖聖の心を心として、如何に苦難の中をも厭わず、いよいよ団精神の發揮に精進している。光明団は唯、これらの同志の一致団結によつて十有六年の歩みを成就して来たのである。全国の同胞の熱誠が如何なるものであるかは諸君のすでによく知る処である。同胞たちのあの熱誠を思う時、我等は如何にせなければならぬかはわかつている。年末に當つて、我等は全国の同胞に向つて衷心感謝の意を捧げねばならぬ。

次に我等は、年末に當つて過去の歩みを清算して、その悪しきを去ることに忠実でなければならぬ。私は共に戒慎すべき事項を考えてゆく。

一、本部への来訪者に対する態度。

本部に来訪する者は、皆み法を聞かんとする人である。念仏求道の人である。それらの同胞に対しては親切に温かにすべきである。もとよりよく今日まで為されてはあつたが、まだまだ我等の態度には反省しなければならぬ処がありはしないか。同胞が帰つて来た時、それに対して些細のことをとりあげて欠点を語つたり、冷くしたり、或は色眼鏡で見たりしてはならない。皆真剣な求道者であると考へて接しなくてはならない。もとより純粹な心の者だけが来るとは言えない。しかし本部は完成された人格者のみ来る処ではない。悪い人も、無自覚な人も、そのまま、やがてそれが念仏の人となつて帰つてゆくための念仏道場である。たとえ直接、求道のために来ぬ人でも一度本部に足をかける人には、全て念仏の心、温い親切な態度を持つて接しなくてはならない。然るに来る人を色眼鏡で見、是非善悪の非難をなし、冷たく当り、不快を感じしむるが如きことあれば、ひいてその人を本部より追い、念仏道の障碍となるであろう。親切こそは、そのまま念仏道の發揮である。犬の子一匹もこれを拜んで迎えるの覚悟がなくてはならない。それについて過去において遺憾であつた点を語れば……………

一、つぎに一度本部を出でて、外部に接する時の心得である。この地方の人に接するにも、その語る態度、言葉に気をつけなくてはならないと共に、その内容に気をつけなくてはならない。人の悪評、不平……………等々を語り、いやしくも念仏道を疑はしめ、本部を傷つけ、仏を汚すが如き言動があつてはならない。過去において遺憾な点を挙げると……………

一、つぎに本部内の近来の空気は誠に良好であるが、本部内の『和』を成就することとは何よりも重要なことである。我等は多くを言う前に、本部内の和の成就に懸命にならなくてはならない。過去においては時々遺憾の点があつた、来るべき年は、全員特にこの点に注意して、先ず我等の和を成就しなくてはならない。もし万一、不和を生じた場合は、半日とこれをつけてはならない。速やかに如来聖人の前に、一切を懺悔して念仏の心に還り、怒りをとき、柔和忍辱の世界に住すべきである。

一、言語に気をつけ、特に女子は上品優雅なる言葉を遣い、本部をして野卑粗暴の世界としてはならない。常に和顔愛語をたもち、本部の空気をして春の如くならしめねばならない。近來のこの空気をそのままに來るべき年に処してゆきたい。

一、我等をあやまるものは英雄主義的な氣持である。立場を与えられたら働く、肩書があればやる、でなければ怠るといふ人はないが、常に船底の火夫を以つて任じ、文字通り、全身全霊をもつて報謝の大作に精進すべきである。私は享樂的な心を克服し、全員一致団結の内に、年を迎えたことを衷心感謝せざるを得ない。

一、私は來年度における經濟方針及計画について申し上げる。……………よく、かくの如き歩みをせねばならぬ團の立場を了解して御奮闘下さらんことをお願いする。

一、最後に光明團の歩むべき方向について……………」

以上の如く仏前において、感想及び感謝の話が終ると、時計は八時を報じた。

私たちは誠に楽しい年越しの食卓についた。誰も彼も嬉しい朗らかな顔、皆元氣である。何時も御馳走のない本部にも、こうした時だけは、少しばかりの品が食卓にならぶ。すき焼の味がよい。日校や幼稚部の歌さえ出る。

本部で年とつた人たちは、

住岡狂風（四一） 同 母（六六） 同 絹枝（二六） 同 公子（二〇）

同 早枝子（八） 同 啓三（二七） 佐々木湿三（四〇） 同 栄（三三）

亀谷悌三（二六） 越堂末人（二七） 市野原正人（二〇） 藤井なみ子（二八） 3

鴨井いし（二九） 玉木英世（二七）

以上の十四名であつた。

昭和十年一月元旦！ 時計が午前四時を報ずる、全員起床、今朝に限つて掃除はない。

午前五時、二階のホールに参集、

一、皇室、伊勢大廟にむかつて遙拝最敬礼。

一、国歌 君が代合唱。

一、教育勅語斉誦。

以上によつて拝賀を了り、それより、

一、各自、祖先墳墓の地、父母在します方向にむかつて、瞑黙合掌数分。

一、仏前聖勤、礼讃文、正信念仏偈、御本典総序拝読、合掌宣言、法悦文の朗読、恩徳讃合唱、終つて一同拝賀の言葉交換。お茶干柿を頂戴して一同語り合う。東雲の空や、明けそめて、ここに元旦の意義深き雑煮を頂き、新春は芽出度く我等が前に展開して來た。いぎこれより、新らしき活動に入らん哉。輝かしき元日よ。静かに全国の同胞を念仏の中に憶念する。多忙を予想せられる今年。至心精進、忍終不悔。